

10月1日(土)・大会1日目 13:00~14:20 (C会場:1201) (80分)

●セッション【7】

「経営・組織論研究における歴史的転回」

* 酒井健(東北大学大学院経済学研究科准教授)
井澤龍(東京都立大学経営学研究科准教授)
坪山雄樹(一橋大学大学院経営管理研究科准教授)
長谷部弘道(杏林大学総合政策学部准教授)
宮田憲一(明治大学経営学部准教授)

*セッション・リーダー

[概要]

本セッションでは、「経営・組織論研究における歴史的転回」と題して、近年世界的に進んでいる経営学と歴史との対話について、異なる専門性や立場から議論する予定です。最初にセッションリーダー兼司会の酒井と井澤先生より、過去20年に欧米で進んだ「経営・組織論研究における歴史的転回」について概括的にご報告します。次に、坪山先生と酒井から、歴史的転回の中心的な議論になっている「過去の利用(uses of the past)」や「修辞的歴史(rhetorical history)」研究に焦点を当てた報告をする予定です。その後に、経営史学会でもアクティブに活動されている長谷部先生・宮田先生・井澤先生から、「経営学の歴史的転回に接して」というタイトル(仮)でご報告いただきます。最後にフロアの参加者も含めて各報告に関する質疑とディスカッションを行う予定です。

[参加者へのメッセージ]

このセッションでは、欧米の経営学・組織論研究において有力な研究ストリームになった歴史的転回(historic turn)について考えていきます。まず歴史的転回とは何だったのかについて理解を深めます。その後に、大まかに経営学の立場と経営史の立場に分かれ、歴史的転回を鍵に対話を重ねる予定です。例えば——「歴史的転回とは何か。日本の経営学者にも利用可能なトピックなのか?」、「経営史の立場から、それはどう見えているのか?」、「日本でも経営学と経営史とのコラボレーションは進むだろうか?」等、歴史的転回を巡る現実的な問題について、皆様とも一緒に考えていくことができればと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。